

北海道地域福祉学会ニュース NO.32

2008.9.30

北海道地域福祉学会事務局(北海道社会福祉協議会地域福祉部)

第15回研究大会のあらまし

北海道地域福祉学会(会長、杉岡直人・北星学園大社会福祉学部教授)の第15回研究大会が7月12日、札幌市厚別区の同大学で開かれた。

大会のハイライトといえるシンポジウムでは、厚生労働省社会援護局長の私的研究会「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」(座長、大橋謙策・日本社会事業大学長)が今年3月に「地域における『新たな支え合い』を求めて～住民と行政の協働による新しい福祉」をまとめたことを踏まえ、道内で住民側に立って「共助」による福祉の推進を図っている人たちが、密度の濃い報告と提案を行った。

自由研究発表二題

大会は自由研究発表、基調講演、シンポジウムの3部構成で開かれた。

最初の自由研究では、全国引きこもりKHJ親の会連合会北海道「はまなす」の田中敦事務局長が「社会的ひきこもり者家族会調査にみる北海道の現状と課題」と題して発表。「はまなす」会員の居住地は、札幌市がほぼ半数を占める、ひきこもり者の性別は男性が大半を占める、年齢は20代と30代がほぼ同数で合計88%を占める、ひきこもっている時期は2～5年が40%を占める、ひきこもきっかけは「人間関係」が43%と最多——などと発表した。

2番目の自由研究は弘前大学社会福祉学部の小川幸裕専任講師による「中山間地域における『独立型社会福祉士』の課題と展望」で、2カ所の独立型社会福祉士へのインタビューで地域特性や独立の背景、活動内容を探った。

基調講演に福島県矢祭町の前町長

基調講演では、国が「平成の大合併」を推進していた頃、全国初の『合併をしない宣言』を行って注目を集め、財政の自立と職員の意識改革を徹底した福島県矢祭町の根本良一・前町長を迎え、「自立を基本とする矢祭町のあゆみ」と題してお話をいただいた。その中身をダイジェストで紹介すると

【なぜ、この場に…】

矢祭は何にもない町、せめて1年に数回は子ども中心の祭りをしようと「たこ揚げ大会」や「紅葉まつり」を始めている。(6期を終えて町長を引退した私の)遺言として残してきた。

小さな町で首長を24年間続けたからといって、値打ちのない私が何故べらべら話さないといけないのか。何故、私がここにいるのか、不思議だ。当たり前前のことを真面目に続けたにすぎない。今の日本は当たり前前のことが通用せず、自分が良ければ良い、それこそ当たり前なのだと変わってきている。

私が町長バッジをつけないから、作家の陳舜臣さんに「どうしてか」と聞かれたことがある。バッジをつけると服が破れそうで、もったいない。バッジを庭に捨てたが、不自由もない。

昭和58年に初めて町長になった。家族は最初から怒っていて「町長を尊敬している人など、町に一人もいない。お陰で私も町を歩きにくくなった。町長をやってるあなたに協力なんかしないよ」といわれ、食事も、うまいものを出してくれない。辞めようと思っても辞められず6期になった。

これ以上やると「オオカミ少年」といわれるので固く決意して助役に後継を頼んだが、助役は家族に「駄目」といわれ1週間ほど出勤しなくなった。その上、背骨の病気で口が利けず手足が痺れ、結局、150日ほど入院して亡くなった。そこである町議に助役になってもらった。彼は昨年4月の町長選で無投票当選したので、ようやく譲ることができた。

【合併をしない宣言】

平成13年に『合併しない宣言』を町議会の全会一致で宣言し、自主独立の道を貫くことを決めた。最初は「合併反対決議」にしようかと思ったが、通りかかった職員から「合併しない宣言で良いのではないか」といわれた。確かに、ウチの町だけの判断なのに全国を敵に回すような宣言では良くないと思った。「キジも鳴かずば…」ということだ。

合併しない町はたくさんあるのに、宣言第1号というのは難しいものだ。北海道の町や九州の離島など、全国から視察団がやって来た。財政力の低い町が多かった。貧しい町は合併特例債などで国から「カネをやる」といわれても、自己負担が大きすぎて従えない。

一番良くないのは「当面は合併しない」という首長、将来どうするのが分からず、住民に責任を持つとしない態度といえる。

合併してより良い社会を築こうというなら、合併は良いことだ。しかし現実には合併にまつわる「良い話」を聞かない。「福祉が良くなった」というところはない。政府は「カネがないから合併」という言い方もしていたが、現実には節約になっていない。

「合併すれば10年間は合併前の自治体への配分額を合算した、従来通りの地方交付税を配分する」「事業費の95%まで貸し付け、返済額の70%を地方

交付税でまかなう合併特例債を認める」と、国は合併促進のためにいつてきた。特例債は「好きに使ってもよい」という。しかし、そんなうまい話はない。

私は「財政と合併は同じ規格で測れないといってきた。「持参金つきだから合併」というのでは、うまくいくはずがないのだ。

日本に一つしかない物は東京にある。きりがないほどある。そのツケが国民一人1000万円の借金だ。「あの人たちが好きにやっている」というのは間違いない。でも、カネがないのは事実で、スネはガリガリ状態だ。

【財政改革】

矢祭町の財政力は、かつて1,000円を使うのに200円の収入しかなかった。今は400円。この先、800円に増える見通しだ。そうなるシフトを敷いてから、私は辞めた。収入不足時に備える財政調整基金は2億円でスタートした。現在は13億円。まだ増えるはずだ。

矢祭町は、よその町にないインフラをたくさん整備した。よそにはあるがウチにないインフラというのはあまりない。町長になって10年ほど、公共投資に力を入れたからだ。現在の借金は約40億円。国の過疎債を積極的に使ったので、町が負担する借金は17～18億円ぐらいだ。古い借金はなくしたので財政は良くなった。

134人いた職員を65人に減らした。人件費を1年に4億円減らした。印刷費もかけず職員の手作業で製本するから、矢祭町の資料の体裁は全国で一番ボロだ。でも、中身は全国に冠たる立派なものだ。年に200～250万円あった町長交際費も「そんなものいらない」といって廃止した。そうしたら町議会の議長が「おれも止める」といつてきた。

公共事業の起工式で、私は自分の分だけ払う。職員に「悪いけど、負担してほしい。嫌なら飲食の席に出なくてもよい」ということにしている。とにかく税金は一切使わない。よその町の情報公開は、飲食の会の出席者名を黒塗りにしていることが多いが、ウチは一切を公開している。隠すから見たがるもので、ウチみたいに隠さないでいると「見せろ」という人はいないものと分かった。

税金で食っている私たちがちゃんとやらずに町民に「うまくいかないから助けて」と頼むのは駄目だ。まず、私たちが一生懸命にやらなければ。かつては年に3800万円の超過勤務手当を職員に払っていたが、今は職員数が半分なのに手当はゼロに近い。

一人でできることを、かつては三人半でやっていた。今は減らすのが難しいが、セーフティネット分を加えても1.5人に近づいた。役場の組織も7課を4課に減らした。

年中無休の役場の勤務時間はフレックスタイムによって可能にした。職員の自宅を出張役場にして印鑑証明などを出すことにしたので、人によっては使い込みを心配した。しかし、役場の職員については信頼がおけないなどと考える必要はない。矢祭に不

祥事はない。

職員にハードワークをさせていない。高速道路を県庁に向かっていたら、矢祭町の公用車が走っていた。聞くと、県立移動図書館から借りた段ボール3箱分の図書を積んで、職員3人が図書館へ返却に行くという。1人で十分なのに。

県庁では、職員7人がエレベーターで台車に載せた書類を運んでいた。その傍でコカ・コーラの青年は1人で汗をかいて台車を押していた。官と民の差が歴然としていた。

【町民の施設は立派】

役場庁舎はボロだが、老人センターや学校、集会所などはどこの町にも負けない。役場のトイレは古いえ段差に苦労するので、町長を辞めるとき職員に「すまなかった」と謝り、新しくしてきた。

任期で最後の小学校新築、その校長室の内装は、初めに張ってあった杉板をわざわざはがして大理石のようなきれいな建材にしていた。業者が「マラカニアン宮殿のように泊まれるようにしろと指示された」といったので女性の教育長を叱りつけた。彼女は泣き出したが「いいや、おれは許さないよ」と申し渡し、「元の内装に戻す」といっても「悪い見本にするためだ」と、そのまま残させた。

特別養護老人ホームでも、施設長の部屋だけ暖冷房完備の立派な部屋にするようなことが起きた。町の健康福祉課長を呼びつけ「自分が施設長になるつもりかもしれないが、おれは許さない。寝たきりの人の居室にはエアコンをつけろ。職員の部屋はそうするな」と指示した。

矢祭町の介護保険料は1,840円、水道料金も保育料も安い。そんな話はごろごろあって、町民が「役場はよくやっている。協力するよ」といつてくれる。

人件費を減らし、お年寄りと子どもを大事にしている。働き盛りの町民には「あなたたちの施設を作らないが、もっと働いて税金を払ってくれ」と話し、お年寄りには「ありがとう」といつている。そのために、自治基本条例を使っている。

メモ 【矢祭町】

人口 6,500 人 (今年 6 月 1 日)、15 歳未満の年少人口率 13・5 % (05 年)、65 歳以上の高齢人口率 30.7 % (同)、第 1 次産業就業者数 751 人 (00 年)、第 2 次産業同 1,609 人 (同)、第 3 次産業同 1,239 人 (同)、農業算出額 19 億 8000 万円 (04 年)、製造品出荷額等 457 億 5900 万円 (同)、商業年間商品販売額 39 億 1500 万円 (03 年)

【これまでの取り組み】

- ・職員 新規採用停止 (03 年から) 嘱託職員半減 収入役廃止 重要職報酬削減
- ・議会 議員定数を 18 人から 10 人へ削減 (02 年 9 月) 議員報酬削減
- ・組織変更など 7 課体制を 4 課に 職員が庁内、トイレ清掃

- ・開庁時刻 窓口業務にフレックスタイムを導入し
年中無休に 平日は7時半～18時半
- ・出張役場制度 職員の自宅を役場とし各種届出・
収納事務
- ・保育所と幼稚園の一元化（保育時間は平日7時15
分から18時45分、土曜日は7時45分～12時45
分）
- ・町税、介護保険料などをスタンプ券で支払い可能
に スタンプ券は買い物金額に応じて商店街が発
行
- ・役場職員消防隊の結成
- ・職員が滞納税金を回収 夜は超過勤務手当の不要
な課長クラスが担当
- ・住民基本台帳ネットワークシステム不参加 02年
7月に全国で初めて宣言。個人情報保護と利用
者が年に10人不足だったため
- ・議員報酬を月額制から日当制に 08年3月31日
以降の議会から導入。日当は議会出席ごとに3
万円。期末手当（ボーナス）を廃止。
- ・「矢祭もったいない図書館」 開設に先立ち、図
書寄贈を一般に呼びかけ約1年で43万5000冊
の寄贈。建物は古い武道館を改修。
- ・破格の好条件で企業と住宅を誘致
- ・介護保険料 福島県内で最も安い

【08年度重点事項】

- ・プロジェクトY事業（結婚促進）に300万円
- ・妊産婦健診費用助成（1回4,000円、15回）に500
万円
- ・第3子以上赤ちゃん誕生祝い金に900万円
- ・保育料約50%減免に400万円
- ・幼稚園・小中学校給食費約40%減免に1200万円
- ・小学5・6年、中学3年生の土曜スクールなど高田
基金による教育支援事業に1000万円
- ・中学3年生海外修学旅行に1100万円
- ・高校生就学補助（一人2万円）に500万円
- ・県営農免・広域農道整備に2000万円
- ・橋梁塗装工事に1600万円
- ・町道改良工事に1400万円
- ・小型動力ポンプ積載車購入に1800万円

【今後の主要課題】

- ・乳幼児と母親の健康確保（06年度～）
- ・乳児・児童の健全育成（06年度～）
- ・第3工業団地早期操業
「矢祭ニュータウン」分譲地販売（98年度～）
- ・集落自治活動の充実（06年度～）
- ・国道整備の促進

（文責 北海道地域福祉学会事務局）

会費納入のお願い

2008 年度会費の請求と、過年
度分の会費請求を行います。どう
か納入につぎまして、特段のご協
力をお願いします。

北海道地域福祉学会

会長 杉岡直人

「北海道地域福祉研究」の投稿を募集します!!

2008 度北海道地域福祉学会誌、「北海道地域福祉研究 第 12 巻」の投稿を募集します。

ご投稿を希望される方は、2009 年 1 月 23 日（金）迄事務局宛ご連絡下さい。また、投稿される方は、下記の投稿規程を基に 2009 年 2 月 20 日（金）迄【当日消印有効】に事務局宛投稿下さるようお願い致します。

◆北海道地域福祉学会誌「北海道地域福祉研究」編集・投稿規程

1. 本誌は、北海道地域福祉学会の機関誌であって、年 1 回発行する。
2. 本誌は、原則として会員の地域福祉関係の研究発表にあてる。
3. 本誌は、論文、研究ノート、実践レポート、資料、書評、その他の欄を設ける。
4. 本誌の編集は、編集委員会によって行われ、原稿の掲載は編集委員会が決定する。
5. 掲載する原稿には投稿原稿と編集委員会からの依頼原稿がある。
6. 投稿者（複数の著者がいる場合は筆頭著者）は、本会員でなければならない。
7. 投稿論文は査読に基づく審査により、編集委員会が採否を決定する。
8. 原稿は別途定める執筆要領に従うものとする。
9. 執筆要項に定められた字数等の制限を超えた場合には、審査の有無に関わらず編集委員会から修正を求めることができる。
10. 投稿者は、編集委員会事務局に原稿のコピーを 2 部送付するものとする。投稿原稿は、原則として返却しない。
11. 著者校正は、1 回とする。
12. 掲載論文については、掲載誌 2 部を進呈するが、切り刷り（別刷り）を希望する場合は、執筆者の実費負担とする。

～投稿に関するお問い合わせ先～ 北海道地域福祉学会事務局

北海道社会福祉協議会 地域福祉部地域福祉課内（担当：三浦）

〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 北海道社会福祉総合センター内

TEL (011)241-3976 FAX (011)271-1977

E-mail d-gakkai@dosyakyo.or.jp



あっという間に定期総会から 2 ヶ月が過ぎてしまいました。早く会員の皆様に議案書や研究紀要をお届けしたかったのですが、9 月になってしまいました。ニュース次号では研究大会のシンポを取り上げます。事務局は要介護状態です。応援をお願いします。

北海道地域福祉学会ニュースNo.32

発行日 平成 20 年 9 月 30 日

発行 北海道地域福祉学会事務局

北海道社会福祉協議会地域福祉課